

平成29年度 第1回 高槻市中心市街地活性化協議会 会議録

日 時：平成29年4月13日（木）午後2時～3時

場 所：高槻商工会議所 4階 大ホール

出席者：協議会会員21名

事務局：高槻商工会議所、高槻都市開発株式会社

市担当課：高槻市産業振興課

1 開 会

(1) 定足数の報告

会員総数26名中出席者21名で、規約第7条第4項により定められた定足数（過半数14名）を満たしている旨が報告され、「平成29年度 第1回高槻市中心市街地活性化協議会」が有効に成立していることが確認された。

(2) 会長挨拶

高槻市中心市街地活性化協議会 会長 金田忠行 氏

(3) 市長挨拶

高槻市 市長 濱田剛史 氏

2 新たな中心市街地活性化基本計画（素案）について

事務局説明

(1) 第2期中心市街地活性化基本計画策定について

現在我が国は人口減少の時代を迎え、高齢化も加速度的に進んでいる。過去の経済成長、人口増加の時代におけるような無秩序な都市開発を進めていけば、今後の時代には都市そのものが機能を果たさなくなり、衰退することが懸念される。

中心市街地活性化制度とは、人口減少の時代に対応するため、歩いてまわれるコンパクトなエリアを中心市街地と位置づけ、都市機能を集約させ、持続可能な地域としていくことを趣旨として進められている。

市が中心市街地活性化基本計画を作成し、内閣府から認定を受けると、国から様々な支援が受けられる仕組みである。計画に記載する事業の大半は、中心市街地活性化協議会の構成員をはじめとした皆様に進めていただくものとなっている。

平成27年度、28年度と計画の策定を進めてきたが、平成29年度は、今回の協議会にて最後の調整を行い、5月に内閣府に申請、6月に認定を受けることを目指して進めている。

(2) 新たな中心市街地活性化基本計画（案）について

中心市街地活性化基本計画は、本市では平成21年11月に内閣府に1回目認定を受け、今回は2回目の策定となる。1回目の計画では、JR高槻駅北東地区における再開発を基軸に計画を進めてきた。計画終了後に実施結果のフォローアップを行ったが、計画の目標指標として掲げていた歩行者の通行量、小売業年間商品販売額は残念ながら目標には到達しなかった。JR高槻駅北東地区に新しいまちが開かれ、新たな賑わいをもたらされたが、そのにぎわいは中心市街地全体に波及していないことが明らかになった。

今回の計画では、JR高槻駅北東地区から南側や東側に賑わいの効果を波及させていくことが第一の目標となる。その目的を達成する基本方針として、安満遺跡公園、城跡公園、市民会館といった施設の整備により、中心市街地に来街する機会を増やすとともに回遊性の向上を図り、歩行者通行量を増やしていくことで、まちの賑わいを取り戻していく。

もう一つの目標として、経済の活力の向上、商業の活性化を目指す。市としても、市内に新たに飲食店や小売店を出店する際に店舗の改装費の一部を補助する制度を用意しているなど、新規店舗の出店の促進、既存店舗の売り上げの向上を一体的に進めていくことで、経済活力の向上を図っていくことが基本方針となる。

以上は、前回の協議会で説明したことと変更はないが、目標指標について修正がある。計画に掲げている3つの指標のうち、目標指標2は建て替えを進めている市民会館の年間利用者数としていたが、中心市街地全体の面的な賑わいを測定するためにしろあと歴史館の年間利用者数を加えて、「歴史・文化施設の年間利用者数」に変更した。また、目標指標3は魅力的な店舗の出店件数としていたものを、経済活力の向上の効果をよりわかりやすい指標で示すため、「中心市街地の新規出店数」に改めた。

本計画における取組は、市が主体となっているものもあるが、多くは民間事業者が主体となって行うものである。こうした面的な取組で中心市街地の活性化を進めていくものである。

2月に内閣府の担当官が現地の視察を行ったが、計画の内容については概ね了承をいただいている。今後、このまま調整を進めていければと考えている。

3 協議会からの意見書について

事務局説明

中心市街地活性化法では、市町村が作成する計画に対して、中心市街地活性化協議会が意見を付すことができることとなっている。その意見の案として、協議会の金田会長、木ノ山副会長に確認させていただきながら、皆様の意見を集約させてい

ただいた。

具体的な意見としては、まちを訪れる目的となる新たな拠点の創出、歩行者優先のまちづくりの推進、中心市街地全体での活性化推進、官民一体となった商業活性化への取組、以上の4つのご意見をいただいた。意見書を改めてご確認いただき、市に正式に提出すると、計画の中に意見書を掲載したうえで、市から内閣府へ認定を申請する運びとなる。

また、市では、前回の協議会に示した計画の素案にて、パブリックコメントを実施した。12月20日から1月19日までの間に、意見を募集したところ、市民1名の方から20件の意見が寄せられた。概ね、市民の方も、現行の計画について賛同している。

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

ーなしー

事務局説明

先ほど示した意見書案について、新たなご意見等がないようであれば、その内容で正式な意見書として提出する。

4 今後の予定について

高槻市

5月に内閣府に計画の認定申請を行い、6月に認定が下りた際には、委員の皆様にご連絡をさせていただく。計画書の正式な配布は7月以降となる予定である。

認定が下りた後の計画の推進については、官民一体となっていくこととなる。引き続きご協力をいただきたい。

5 各会員からの情報提供

(1) 高槻商工会議所 会頭 金田忠行 氏

商工会議所は今年度、70周年を迎える。10月20日に現代劇場にて、式典と懇親会を行う。11月18日、19日には、70周年記念事業イベントを行う。池上彰氏の基調講演や、中学生や高校生の音楽や踊りのコンテスト表彰、健幸経営をテーマとしたブース、野見神社での子ども向けイベントを予定している。

また今年度は「オープンたかつき」が2年目を迎えるが、70周年記念事業として協賛して応援していく。

10年に1回の事業として、会員の方だけでなく市民の方にも参加していただくべくアピールをしていく。

(2) 公益社団法人高槻市観光協会 事務局長 北建夫 氏

昨年度から「オープンたかつき」を実施している。市内外の人に高槻の多様な魅力を見ていただき、観光することができるまちとなるよう、まちあるきや体験プログラムなどのツアーを展開していく。高槻市、高槻商工会議所、高槻市観光協会にて運営会議を構成し、観光協会が事務局としてあっている。

昨年度は、64プログラムを用意し、2,100名の定員に対し、94.14%の申し込みがあった。参加者の属性をアンケートで調べた。性別をみると、有料プログラムでは女性が8割、無料プログラムでは男性・女性が5割であった。年齢では、有料・無料とも、60%以上が50代以上、男性は70代以上、女性は40代が多かった。住まいは、有料・無料とも8割が市内、2割が市外で、茨木市、大阪市、京都市、島本町が多かった。同様の取組を西宮市でも行っているが、同市でも当初は8割前後が市内という結果だった。

「オープンたかつき」のプログラムは一年にわたり、高槻市の魅力を紹介したいという思いから、29年度においても4月から6月にかけて「オープンたかつき2017春」を実施している。この事業は商工会議所70周年記念事業の一環でもあり、36プログラムを用意し、4月5日から募集をしているが、大きな反響があり、無料プログラム14のうち12が定員に達して受付を終了した。残り2つも70%の申し込みがある。有料プログラム22のうち8プログラムは定員に達して受付を終了した。2、3のプログラムを除き、50%から90%以上の申し込みがある。

こうした反響から、「オープンたかつき」も一定の認知度を得てきたのではないかと思う。この春のプログラムでは、市内の事業者にご協力をいただいたプログラムも多くあり、ガイドブックも配架については、阪急電車様をはじめとして協力をいただき、特にJR高槻駅様にはガイドブックの配架などのPRとともに、電車見学のプログラムを用意していただくなど、全面的にご協力をいただいた。この場を借りて心から御礼申し上げます。

(3) 高槻商工会議所 会頭 金田忠行 氏

(兼務：公益社団法人高槻市観光協会 代表理事)

茨木、吹田の観光協会は歴史的に浅いこともあり、商工会議所との関わりが非常に強い。高槻ではほぼ独立している。商工会議所の立場としては、観光は非常に重要な事業であり、できるだけ関与するようという要請もあって、私が代表を兼務させていただいている。

茨木、吹田の観光協会と連携することも大事と思っている。同時に、観光は非常に裾野が広く、いろいろなことをやっていかないと観光はなりたたない。あわてず確実にやっっていこうと思っている。

日本の産業の構造が輸出から観光へと変わってきている。外国人観光客は日本全体

で今年2,000万人に達し、さらに政府は2020年に4,000万人、2030年には6,000万人という目標を立てた。高槻市としても受け入れ体制を確実にしていく。そのためには全体から応援いただかないといけない。ステップバイステップでやっていきたい。

(4) 京阪バス株式会社 経営企画室 部長 田中弥 氏

当社は高槻市で完結するバスではなく、京阪枚方駅とJR高槻駅、阪急高槻市駅を結ぶという責務でバス運行をしている。中心市街地に都市機能をまとめると当社との立場と若干異なるところもある。

ただ、中心市街地が魅力あるものになれば、高槻から枚方に行く人が少なくなるが、逆に枚方から高槻に来られることとなる。人の流動ができるという点ではありがたいと思っており、この会議にも参加している。

弊社もお客様にたくさんご利用いただくべく施策を考えている。京阪グループのバスナビゲーションとして、総合検索サイトが新しくなった。各バス停にQRコードあるいはコード番号が表記され、これをスマホで読み込むことで、バスの接近状況を確認することができる。これによりインバウンドなど、バス停名が読めない方にも対応できる。また、バスとしては初めて遅延情報を発信する。一方、時刻表と合わせて、バス停の位置を地図上に落とすという新しい試みも行っている。

(5) 株式会社そごう・西武 西武高槻店 店長 高橋幸彦 氏

高槻で商売をさせていただくなかで、高槻のまち、産品、人の魅力を地元の方々と連携してご紹介する場として、2009年に「高槻ご当地味めぐり」という催しを始めた。毎年1回9月に、去年までに8回開催している。当初は20社ほどご出展していただいたが、年々増えて昨年は約40社となり、売上高も当初の3倍まで増えてきた。高槻の産品を一同に集め、一か所で見させていただき、味わっていただけることで、地元のお客様にも喜んでいただいている。

当初は催事場だけで行っていたが、2015年からは店全体で取り組んでいかないと、高槻と北摂エリアのいろいろなものを紹介する「高槻&北摂ウイークス」に拡大して、春秋年2回開催している。商品を紹介することに加えて、高校の生徒の演奏や、NPOと連携したイベント、デザイナーの紹介などをさせていただいている。高槻は面積が広いが、中心市街地に来てもらえれば、高槻のいろいろな魅力が一同にご覧いただける企画である。

今後も、高槻市、商工会議所、NPO、学校等、色々な方と連携して、さらに魅力的な企画を行い、まちを盛りあげていきたい。

(6) 高槻センター街商店街振興組合 理事長 木ノ山雅章 氏

高槻センター街では第4金曜日を「サンクスディ」として、各店でサービス商品を出していたが、政府の取組にあわせて、名称を「プレミアムフライデー」に変更した。3月31日に第1回として、のぼりをたてて、各商店が売り出し商品を出したり、催しものをしたりした。感触としては雨であったこともありもうひとつだった。政府が進めるプレミアムフライデーを導入している企業も一部であり、浸透するにはもっとテレビなりで紹介をしてもらわないといけないだろう。

店舗の方もプレミアムフライデーを知らない人が多い状況ではあるが、政府がこの取組を進める限りは、商店街としてはプレミアムフライデーを続けていきたい。

6 閉 会

(1) 副会長挨拶

高槻市中心市街地活性化協議会 副会長 木ノ山雅章 氏